令和６年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立中里中学校

所在地　佐世保市中里町905番地

校 長　川口 貴晴 生徒数 346名 学級 12

１　主なテーマと目的

（１）支え・学び合う生徒の育成事業の推進

○　人権感覚を育て恒久平和への思いと人権尊重の意識を高めるために、人権平和学習に計画的に取り組み、生徒の思いやりの心情を育てる。

○　一生を通じて快適で能率的な視生活を送るために、ビジョントレーニング（眼球運動・視空間認知）を実施し、書く力・読む力・集中力・注意力・記憶力等の力を育て、規則正しい生活を送ろうとする意欲を養う。

○　いのちについて深い考え方に触れることを通して、自他の生命を大切にする心情を育て、互いに思いやりのある実践的態度を養う。

（２）磨き・高め・励まし合う生徒の育成事業の推進

○　ゲストティチャー等から働くことの意義とやりがいを聞くことや体験活動を通して、今後の進路決定に対して真剣に考えさせ、自己目標の達成のために努力する態度を養う。

○　生きる力を育む集会として、各学年の実態に応じた内容の講師をお招きして、活動を通して愛（合い）のある生徒の育成を育む。

２　成果と課題

（１）成果

○　支え・学び合う生徒の育成事業では、平和学習として「６・２９平和集会」を高校生平和大使や高校生１万人署名運動の中心的な存在として活躍した本校卒業生の関口萌さんを講師にお迎えして各学年ごとに３回実施した。関口さんからは、平和について意識するようになった修学旅行での大刀洗平和祈念館の話や、ご自身の学生時代の話、そして高校生平和大使になった経緯やその後のジュネーブにある国連欧州本部訪問などの活動まで、平和についての思いなどをたくさん語っていただいた。特に「ビリョクだけどムリョクじゃない」「平和とは相手の心の痛みがわかること」などの言葉は心に響いた。また、国際化が進む現代の中で異文化理解が何よりも大切であり、そのためにも「日本の歴史を知ること。そして相手を知ること」が不可欠であることなどを熱く語っていただいた。生徒は関口さんの話にしっかりと耳を傾け、平和について、これからの未来について深く考える時間になった。

○　今年度は、佐世保西消防署員９名を講師に招いて、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としての心肺蘇生があることを教えていただくとともに、心肺蘇生の方法（胸骨圧迫、気道の確保、人工呼吸）、AED の使用方法等を講義、実習で学んだ。消防署員の方からは、自分の命を守ることは最優先ですが、「誰かの命」を救

うことになるかもしれないと考え、受講してほしいとの話があった。生徒は、各学年とも真剣そのもので、身を乗り出して話を聴き、救命措置を体験していた。

○　幼児とのふれあい学習」を３学年の３クラスで実施した。今回は、皆瀬幼稚園の全面的な協力を得て、毎回４０名ほどの園児が来校し、グループ遊びやゲーム、折り紙や追いかけっこなどを行った。幼児と初めてふれあうという生徒や弟妹がいてとても慣れている生徒など様々であったが、今回のふれあい学習を通して、たくさんのことを生徒は学べたと思う。将来は保育や幼児教育に関わる仕事に就きたいと思う生徒も少なくない。今回のような貴重な経験を通して、将来の自分の姿を思い描いてほしいと思う。本体験学習は、誰もが優しい笑顔になれる素敵な時間であった。今後も地域とのつながりを大事にして「共育」を推進していきたい。

○　磨き・高め・励まし合う生徒の育成事業では、９月に実施した職場体験学習の報告会を行った。報告会では、どの生徒も職場体験学習を通して学んだこと、考えたこと、これから頑張りたいことなどを上手にまとめ、堂々と発表した。今回は、保護者のみならず、お世話になった事業所の方々にも手書きの案内状をお送りして、参観していただいた。発表会後には「１４歳のハローワーク」と銘打って、事業所の方々と生徒の座談会を実施した。どのグループも事業所の方々の話に熱心に聞き入り、活発に意見交換をしていた。体験学習は、体験して終わりではなく、そこから何を学び、その先につなげていくことが何よりも大切だと考える。そんな意味からも、今回の職場体験学習は生徒のキャリア教育の観点からも大いに「ためになった」ものと確信している。職場体験で実際に働く人の生の声を聴くことで生徒の進路意識を高めることができた。

○　１年生の全クラスを対象に、マナーアドバイザーの梶谷よし子先生（元国際線ＣＡ）を講師にお迎えして、「洋食のテーブルマナー講座」を実施した。今回は実際の料理は並べずに、フォークやナイフの使い方、スープのいただき方、パンの食べ方、ステーキの焼き加減の伝え方、デザートの食べ方など、仮想的にオードブルからデザートまでの食事のマナーを学んだ。また、水の飲み方や食事中の席の立ち方、食べ終わった後の作法、さらには食事中のＮＧ集などまで教えていただいた。

　梶谷先生のお話の中に「マナーとは、相手を思いやる気持ちを形として表したもの!!」という言葉がありました。まさにその通りだと痛感した。

（２）課題

○　講師の招聘について、次年度の特色ある学校づくりの計画を出す段階で具体的に計画をすることができたが、思春期教室以外にも生徒の実態に応じた講師を招聘していきたい。

○　授業改善研修（職員研修）の講師を予定していたが、実施できなかった。個別最適な学びにつながる授業改善へ向けて、職員研修を計画的に取り入れるようにしていきたい。

○　本年度生徒会を中心とした生徒の主体的な活動に取り組み、執行部による学年別球技大会を実施することができた。しかし、各専門委員会活動において、生徒主体による活動まで発展させることができなかった。生徒視点による学校づくりに職員

がサポートしていく体制づくりを構築していきたい。

○　保護者と共に学ぶ機会を設けることができたが、保護者の参加人数が少なかったため、保護者や地域を巻き込む活動となるよう活動内容の再構築を図っていく。

3　活動内容

支え・学び合う生徒の育成事業

平和集会

関口萌さん講話

救急法実習

心肺蘇生の方法実習

ビジョントレーニング

１年生ビジョントレーニング実習

支え・学び合う生徒の育成事業

保育実習

ふれあい体験学習（３年生）

いのちを考える講演会

「いのちを育む」（１年生）

生きる力を育む集会

「カプラ体験」（３年生）

磨き・高め・励まし合う生徒の育成事業

マナー教室

洋食のテーブルマナー講座（１年生）

職場体験学習

マックスバリュー中里（２年生）

職場体験学習報告会

各事業所の方との座談会（２年生）